

## 授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅰ (ビジネス英会話Ⅰ)  Business English Ⅰ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

### 【担当教員 実務者経験】

私はシェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。

### 【授業の学習内容】

口頭および書面によるコミュニケーションのためのビジネス英語の使い方を学びます。ビデオ、オンライン・タスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。

### 【到達目標】

ビジネス英語のスキルを身に付けることです。ビジネスで使用する英会話・英語を理解し、書面によるビジネス情報を提供できるようになることが目標です。

### 授業計画・内容

1回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Introductions and greetings
2回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 FOREX
3回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Email skills / Templates 1
4回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Business Travel
5回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Payments
6回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Purchasing
7回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 IT 1
8回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Advertising
9回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 IT 2
10回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Advertising
11回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Email skills / Templates 2
12回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Resume Production / Interviewing 2
13回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 最終テストレビュー
14回目	期末試験
15回目	期末試験/答え合わせ・振り返り, Farewells / Connections

### 評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

### 評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「ライティング、スピーキング、リスニング、リーディングテスト」とする。

### 受講生への メッセージ

### 【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

## 授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅰ (ビジネス英会話Ⅱ)  Business English Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】							
私はシェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。							
【授業の学習内容】							
口頭および書面によるコミュニケーションのためのビジネス英語の使い方を学びます。ビデオ、オンライン・タスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。							
【到達目標】							
ビジネス英語のスキルを身に付けることです。ビジネスで使用する英会話・英語を理解し、書面によるビジネス情報を提供できるようになることが目標です。							

授業計画・内容	
1回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Formal Business Introductions and greetings
2回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 FOREX 2
3回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Email skills 2
4回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Business Meetings
5回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Payments 2
6回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Recieving
7回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 IT 2
8回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Advertising
9回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 IT 3
10回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Marketing
11回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Global Customers
12回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 Resume Production / Interviewing
13回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に付けることができる。 最終テストレビュー
14回目	期末試験
15回目	期末試験/答え合わせ・振り返り。 Farewells / Connections 2
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「ライティング、スピーキング、リスニング、リーディングテスト」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
オリジナルテキスト	

## 授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅰ (英会話Ⅲ)  General EnglishⅢ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。							
【授業の学習内容】							
授業の内容は説明とプレゼンテーションの準備方法です。テキスト、フォーマット、視覚教材など。学生は自分でプレゼンテーションを作成し、定期的にそれらを練習し、そして毎週オンライン課題を提出します。 最終発表は各学生が行います。ビデオ、オンラインタスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。							
【到達目標】							
このクラスの目的は、生徒が自信を持ってプレゼンテーションをする経験を積むことです。この経験を積むことにより、公の場で話し、ゲストに情報を提供する準備をします。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション(目標設定、プレゼンテーション発表)
2回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。また、英語(英会話)学習に必要な、「話す」「聞く」「読む」「書く」を体系的に学ぶことが出来る。  【課題提出方法】 課題提出日までに、各テーマに沿った、課題用フォーマットを使用して、100単語以上のエッセイをメール添付にて、提出する。  【講義内容】 ① 全学生のエッセイを全員に配布。 ② 各学生個人にて、エッセイの内容を読み、理解(和訳)する。 ③ 各学生によるプレゼンテーションを行なう。 ④ 講師による添削(文法・単語など)を行ない、各学生は配布されたエッセイに、訂正内容を書き込む。 ⑤ 各学生にて、エッセイを保管する。 ⑥ 授業終了後、締め切り日までに、次週のエッセイを作成し、提出する。
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	学期末試験/答え合わせ・振り返り
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「プレゼンテーション」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

## 授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話IV)  General EnglishIV	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30  2	開講区分	曜日/時限
<b>【担当教員 実務者経験】</b>							
エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。							
<b>【授業の学習内容】</b>							
授業の内容は説明とプレゼンテーションの準備方法です。テキスト、フォーマット、視覚教材など。学生は自分でプレゼンテーションを作成し、定期的にそれらを練習し、そして毎週オンライン課題を提出します。 最終発表は各学生が行います。ビデオ、オンラインタスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。							
<b>【到達目標】</b>							
このクラスの目的は、生徒が自信を持ってプレゼンテーションをする経験を積むことです。この経験を積むことにより、公の場で話し、ゲストに情報を提供する準備をします。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション(目標設定、プレゼンテーション発表)
2回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。また、英語(英会話)学習に必要な、「話す」「聞く」「読む」「書く」を体系的に学ぶことが出来る。  <b>【課題提出方法】</b> 課題提出日までに、各テーマに沿った、課題用フォーマットを使用して、100単語以上のエッセイをメール添付にて、提出する。  <b>【講義内容】</b> ① 全学生のエッセイを全員に配布。 ② 各学生個人にて、エッセイの内容を読み、理解(和訳)する。 ③ 各学生によるプレゼンテーションを行なう。 ④ 講師による添削(文法・単語など)を行ない、各学生は配布されたエッセイに、訂正内容を書き込む。 ⑤ 各学生にて、エッセイを保管する。 ⑥ 授業終了後、締め切り日までに、次週のエッセイを作成し、提出する。
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	学期末試験/答え合わせ・振り返り
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「プレゼンテーション」とする。
受講生へのメッセージ	
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b>	

## 授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンスキル (キャリアプログラムⅣ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
	Career ProgramⅣ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分
学科	IR・ホテル&リゾート科			2	曜日/時限	

**【担当教員・実務者経験】**

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

**【授業の学習内容】**

ワークブックとテキストを使用しながら、コミュニケーションの技法を学んでいく。事前学習⇒演習⇒グループ討論⇒振り返りの順に行い、皆が取り組むようにする。

**【到達目標】**

コミュニケーション力ををあげるため、様々なワークを行いながら”自分自身”・”対話相手”を考えて対応ができるようになる。自己の見つめなおしと自己発見を行うことで、自分の強みと弱みを理解し、社会人に向けての課題を発見することができる。

### 授業計画・内容

1回目	【授業内容の説明】テキストとワークブックの使用説明、授業内容を説明し、この授業の目的を理解することができる。
2回目	【ブラインドワーク】五感を使い「ブラインドワーク」を行う。物事の伝え方をしっかりと考えて「相手に正しく伝える」ということを学ぶことができる。
3回目	【自分探しの技法①】自分史の年表の説明を行い、作成を行う。
4回目	【自分探しの技法②】自分史の作成を行う。自分史を使い、自分の過去と転機を見つめなおすことができる。また努力した事柄を発見することができる。
5回目	【インタビューの技法①】自分史を使いながら、相手に「自分らしさ」を発表する。インタビューを行い、「相手に質問する」ポイントを掴むことができる。
6回目	【インタビューの技法と他己紹介】インタビューの内容をうまくまとめ、他己紹介を行う。キャッチフレーズを付けて相手を紹介する方法を学ぶことができる。
7回目	【私とわたし①】自分がおもう自分と相手がみた自分の比較を行い、自分の新しい一面を発見することができる。
8回目	【私とわたし②】連想ゲームを行い、相手の「イメージ」と本当の相手を理解し、新しい一面を発見することができる。
9回目	【言葉ゲーム】自分の考えが相手にそのまま伝わるかどうか、ゲームを行い、その後検証することで「伝え方」の方法を見つめなおすことができる。
10回目	【質問ゲーム】手持ちのカードの中で誰が違うカードを持っているかを質問しながら探り合う。相手のしぐさや反応をしっかりと見て洞察力・思考力を高めることができる。
11回目	【グループディスカッション①】今まで学んだ技法を使用し、提示された課題に対してディスカッションを行い、意見をまとめることができる。
12回目	【グループディスカッション②】今まで学んだ技法を使用し、提示された課題に対してディスカッションを行い、意見をまとめることができる。
13回目	【グループディスカッション③】今まで学んだ技法を使用し、提示された課題に対してディスカッションを行い、意見をまとめることができる。
14回目	【何年後かの自分へ】今までの学びを通し、成長した自分をイメージしながら手紙を書くことで、目指す夢を再確認することができる。
15回目	【総まとめ】今までの学びを振り返り、初回授業からの成長を再確認することができる。

**評価基準**

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法**

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。

・グループディスカッション3課題の取り組み姿勢

**受講生への  
メッセージ**

**【使用教科書・教材・参考書】**

## 授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンズスキル (キャリアプログラムⅤ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Career ProgramⅤ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科			2	曜日/時限		
【担当教員_実務者経験】							
<p>高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&amp;スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>社会人に必要とされる「社会人基礎力」の3つの能力と12の能力要素をワークを通して学び習得を目指す。</p>							
【到達目標】							
<p>「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を身に付ける</p>							

授業計画・内容	
1回目	「社会人基礎力」3つの能力である、前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)について、理解することが出来る
2回目	主体性(物事に進んで取り組む力)の意味を理解し、実践することが出来る
3回目	働きかけ力(他人に働きかけ巻き込む力)の意味を理解し、実践することが出来る
4回目	実行力(目的を設定し確実に実行する力)の意味を理解し、実践することが出来る
5回目	課題発見力(現状を分析し目的や課題を明らかにする力)の意味を理解し、実践することが出来る
6回目	計画力(課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力)の意味を理解し、実践することが出来る
7回目	創造力(新しい価値を生み出す力)の意味を理解し、実践することが出来る
8回目	発信力(自分の意見をわかりやすく伝える力)の意味を理解し、実践することが出来る
9回目	傾聴力(相手の意見を丁寧に聞く力)の意味を理解し、実践することが出来る
10回目	柔軟性(意見の違いや立場の違いを理解する力)の意味を理解し、実践することが出来る
11回目	状況把握力(自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する能力)の意味を理解し、実践することが出来る
12回目	規律性(社会のルールや人との約束を守る力)の意味を理解し、実践することが出来る
13回目	ストレスコントロール力(ストレスの発生源に対応する力)の意味を理解し、実践することが出来る
14回目	個人発表(12の要素を含む自身の考えを「自身の哲学」として発表)
15回目	振り返り
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。 ・個人発表内容の評価
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

## 授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネス文書Ⅰ)  Business Documents I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

### 【担当教員、実務者経験】

フリーランス取材記者・編集者・エディトリアルデザイナー・カメラマン。音楽雑誌編集部勤務を経て、2004年に独立。専門は保育・育児・教育。「子ども・ファミリー」関連の取材ライティング、写真撮影、書籍の編集・レイアウトを行なう。

### 【授業の学習内容】

- ・様々なビジネス文書の書き方を学ぶ。
- ・社会マナーや考え方を身につける。
- ・社会人として即戦力で活躍するために必要な力を身につける。
- ・PCでの文書スキルを身につける(本講義の文書は基本的にPCまたはスマートフォンなどで作成するものとする)

### 【到達目標】

- ・様々なビジネス文書が独力で書けるようになる。
- ・社会人としてのマナーや考え方、スキルを卒業時に兼ね備えている。

### 授業計画・内容

1回目	ビジネス文書と文書作成の基本(構成、時候の挨拶など)を理解し、活用できる。PCで文書を作成する最低限の知識、スキルを身につけることができる。
2回目	挨拶状の書き方を知り、実際に書くことができる。
3回目	案内状の書き方を知り、実際に書くことができる。
4回目	お礼状の書き方を知り、実際に書くことができる。
5回目	演習テスト2種(こまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を書くことができる。
6回目	見舞い状の書き方を知り、実際に書くことができる。
7回目	暑中見舞いの書き方を知り、実際に書くことができる。
8回目	お詫び状の書き方を知り、実際に書くことができる。
9回目	祝い状の書き方を知り、実際に書くことができる。
10回目	演習テスト2種(こまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を書くことができる。
11回目	依頼状の書き方を知り、実際に書くことができる。
12回目	手紙と封筒、メール文の書き方やマナーを知り、実際に書くことができる。文書など郵送のマナーについて理解する。
13回目	通知書+指示書の書き方を知り、実際に書くことができる。
14回目	企画書の基本を理解し、企画書を書くことができる。
15回目	演習テスト2種(こまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を書くことができる。

**評価基準** A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法** 出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。  
・演習テストの質 各30% × 3回分 計90%  
・毎回の課題の完成に向けての意欲と修正、質向上に対する姿勢 10%

**受講生へのメッセージ** 社会に出て即活躍できる人材になるため、がんばりましょう。

### 【使用教科書・教材・参考書】

## 授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネス文書Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Business Documents I	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科			2	曜日/時限		
【担当教員 実務者経験】							
フリーランス取材記者・編集者・エディトリアルデザイナー・カメラマン。音楽フリーマガジン編集部勤務を経て、2004年に独立。専門は保育・育児・教育。「子ども・ファミリー」関連の取材ライティング、写真撮影、書籍の編集・レイアウトを行なう。							
【授業の学習内容】							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なビジネス文書の書き方を学ぶ。</li> <li>・社会人になるときに備えて、マナーや考え方を身につける。</li> <li>・社会人として即戦力で活躍するために必要な力を身につける。</li> </ul>							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なビジネス文書が独力で書けるようになる。</li> <li>・社会人としてのマナーや常識を卒業時に兼ね備えている。</li> </ul>							

授業計画・内容	
1回目	前期の総復習を通して、ビジネス文書と文書作成の基本を再確認、再定着させることができる。
2回目	挨拶状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
3回目	案内状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
4回目	お礼状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
5回目	演習テスト2種(ここまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を自分の思いや言葉で書くことができる。
6回目	お詫び状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
7回目	祝い状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
8回目	見舞い状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
9回目	年賀状と寒中見舞いの書き方を知り、実際に書くことができる。
10回目	演習テスト2種(ここまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を自分の思いや言葉で書くことができる。
11回目	依頼状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
12回目	勧誘状と断り状の書き方を知り、実際に書くことができる。
13回目	報告書、始末書+念書の書き方を知り、実際に書くことができる。
14回目	激励状の書き方を知り、実際に書くことができる。
15回目	演習テスト2種(ここまでの4回分の授業から2種を指定)の文章を書くことができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。 ・演習テストの質 各30%×3回分 計90% ・毎回の課題の完成に向けての意欲とスクラップ・アンド・ビルドに対する姿勢 10%
受講生へのメッセージ	社会に出て即活躍できる人材になるため、がんばりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
ボールペン、赤ボールペン、ホッチキス(課題を留める)自分の作品をファイリングする(ポートフォリオを作る)ためのファイル(自身が必要とするなら)	

## 授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティマナー (マナー・プロトコルⅡ)  Manor protocol Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30  2	開講区分  曜日/時限

**【担当教員 実務者経験】**

関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電信電話ユーザ協会講師として電話対応コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会入賞者を輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコル協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定Ⅰ種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。

**【授業の学習内容】**

日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコル、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコルを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。

**【到達目標】**

- ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。
- ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコル」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。
- ・授業最終回に学内で実施するマナー・プロトコル検定2級もしくは3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。

### 授業計画・内容

1回目	オリエンテーション:授業の目的、進め方を理解できる。また、マナー・プロトコル検定2級、3級試験の内容が理解できる 理解度確認テスト:マナー・プロトコル検定練習問題を活用したテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる マナーとは何か:慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀・作法の違い、マナーやプロトコルを学ぶ意義が説明できるようになる
2回目	マナーの歴史と意味:日本の礼儀・作法の成り立ち、西洋のマナー、エチケットの成り立ち、アジアのマナーについて説明できるようになる 国際人としてのプロトコル①:プロトコルの原則、具体的な席次例、社交の場でのコミュニケーション、パーティの種類とマナーが説明できるようになる
3回目	国際人としてのプロトコル②:挨拶・握手と紹介のマナー、外国人への贈り物、国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション、日本の伝統文化について説明できるようになる
4回目	小テスト:授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 社会人に必要なマナー①:第一印象の重要性、表情、挨拶、お辞儀、身だしなみ、立ち居振る舞いに、敬語の種類と変換、敬語の注意点、敬称のつけ方、クッション言葉、聴き方の基本、話し方の基本について説明できるとともに好印象のマナーが実践ができるようになる
5回目	社会人に必要なマナー②:和装・洋装のマナー、喜ばれる贈答、祝儀袋・不祝儀袋のマナーと使い方、手紙のマナーについて説明できるようになる
6回目	ビジネスシーンのマナー:ビジネスマナーの必要性、社会人の心構え、会社の仕組み、プロ意識、仕事の進め方、名刺の扱い方、電話対応のマナー、トラブル対応、来客対応のマナー、ビジネス文書のマナー、電子メールのマナーについて説明できるようになる
7回目	小テスト:授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 食事のマナー①:テーブルマナーの基本、和食のマナー、日本料理の基本知識、食事のいただき方、美しい箸使い、食事のタブー、和室の作法について説明できるようになる
8回目	食事のマナー②:西洋料理のマナー、テーブルセッティング、カトラリーの使い方、食事のいただき方、中国料理と各国料理のマナーについて説明できるようになる
9回目	お酒のマナー:お酒の種類、ワインの基本知識、その他のお酒の楽しみ方について説明できるようになる
10回目	小テスト:授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 「冠」のしきたり:冠婚葬祭、陰陽道の考え方、日本の主な通過儀礼、出産祝い、七五三のお祝い、入園・入学祝い、その他のお祝い事について説明できるようになる
11回目	「婚」のしきたり:結婚の変遷、結納のマナー、挙式のスタイル、服装のルール、招待状のマナー、会場でのマナー、ふくさの使い方について理解できるようになる 「葬」のしきたり:仏式の葬儀、神式の葬儀、キリスト教式の葬儀、葬儀・告別式でのマナー、法要のしきたりについて理解できるようになる
12回目	「祭」のしきたり:4月の行事、5月の行事、6月の行事、7月の行事、8月の行事、9月の行事、10月の行事、11月の行事、12月の行事について説明できるようになる
13回目	★期末試験:1～11回目の授業を振り返り、試験を行う。自身の強み・弱みを認識する
14回目	前期試験の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる 模擬試験および質疑応答により、検定2級、3級に向けて自信が持てるようになる
15回目	マナー・プロトコル検定2級、3級 試験実施

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は「筆記試験点数」とする。
受講生へのメッセージ	3級取得者は2級取得を、3級未取得者は3級試験を取得することにより就職活動時や就職後に役立てていただけます。マナー習得と資格取得を目指し、半年間頑張りましょう。

**【使用教科書・教材・参考書】**

マナー&プロトコルの基礎知識

## 授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (華道 I)  Flower arrangement I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
1992年～1995までグラフィックデザイナーとして主に販売促進系のデザインを行う。1996年～2010年まで専門学校関連にてグラフィックデザイナー、ディレクション等の仕事を行う。華道歴22年、個人にて華道教室を行って8年。茶道歴15年、茶道教室を行って2年。講演会や卒業式など舞台の花を生け込む仕事なども行う。						
【授業の学習内容】						
ホテルのロビー、レストラン、部屋、化粧室等さまざまな場所にお花が飾られています。また日本人に限らず海外の宿泊者も増えています。本授業では、日本の伝統文化の1つ「華道」の基本をたしなみ、その場、その場での空間を活かすことや、同じ材料でも人によって違った作品になること、また短期間で複数の花や枝の名前や季節感なども触れるように学習していきます。						
【到達目標】						
華道（生け花）の基本「盛り花」を中心に、骨格作り、空間の取り方、置く（飾る）場所を考えていけていきます。器の大きさ、置く（飾る）場所、空間に合わせて、高さ全体の大きさを考えていけるように。また壺いけや水盤流儀もたしなみます。						

授業計画・内容	
1回目	盛り花の基本(枝):華道の説明、フラワーアレンジメントと生け花の違いについて説明。生け花の基本、盛り花ができるようになる。
2回目	盛り花の復習(枝):盛り花の基本、枝で活けることが出来るようになる。
3回目	盛り花の基本(葉):葉ものを使った盛り花ができるようになる(枝から葉ものになると創作作業が出ます)
4回目	盛り花の復習(葉):葉ものを使った盛り花ができるようになる。
5回目	壺いけの基本:盛り花の材料で、剣山ではなく壺で活けることが出来るようになる(空間の使い方を学ぶ)
6回目	壺いけの復習:盛り花の材料で、剣山ではなく壺で活けることが出来るようになる。
7回目	華材を見て、盛り花としていけるか、壺いけとしていけるか、違いを学ぶ。
8回目	盛り花の復習:骨格を作り、空間を意識し、足元、奥行きについて、置く場所によって変わる等ができるようになる。
9回目	生け花でクリスマス:日本の伝統文化「生け花」でもクリスマスといった洋風の季節を表現することができるようになる。
10回目	正月の盛り花:正月にだけ使う、松や干両、縁起物の枝などを使って正月の生け花ができるようになる。
11回目	正月の盛り花復習:小正月まで時間があるので華材を変えて正月花ができるようになる。
12回目	盛り花の復習:筆記対策として華道の復習と、盛り花の復習をします(回を重ねる中で個性、センス、拘りを活かすことを学びます)
13回目	試験/盛り花:筆記試験と盛り花の実技を行い評価します。
14回目	水盤流儀の基本:水盤流儀の修得。基本1種類の花で1本に見えるようにいけこむ水盤でのお流儀ができるようになる。
15回目	水盤流儀の復習:華材を変えて水盤流儀の修得。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・盛り花制作80% ・筆記試験20% (合計100%)
受講生へのメッセージ	職場で即必要な技術の授業ではありませんが、ホテルにはさまざまな場所に花がざらられています。日本の伝統文化を体験することで、新たな感性やセンスを得ること、海外のお客様は桜や紅葉など日本の枝や花、伝統文化に興味をもたれています。卒業を前に是非、わざわざお稽古として学びに行かなくても授業内で学べます。休まず感性やセンス、技術を得ていただきたいと思います。けっして難しくありませんので安心してください。
【使用教科書・教材・参考書】	

## 授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (ウォーキングⅡ)  Walking & Posture Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30  2	開講区分	曜日/時限

**【担当教員・実務者経験】**

大学卒業後、株式会社りそな銀行へ入行。この頃から脚や身体の不調に悩まされる。無意識にとっていた自己流の正しいと思う姿勢や歩き方が原因と知り、一般社団法人CSでウォーキング講師の資格を取得。その後独立。身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝え企業研修なども行う。現在教室を軸にラジオ出演、イベント、セミナー等幅広く活躍中。

**【授業の学習内容】**

引き続きフラットウォーキングを行いつつ、ヒールウォーキングを身につける。  
また様々なシーンにおいて美しくふるまうコツを具体的に練習していく。  
外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を形を表現するためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。  
信頼感の与えられる人材を育てる。

**【到達目標】**

就職活動や冠婚葬祭のシーンにおいて必要不可欠なヒールウォーキングを美しく正しくできるようになる。日常生活での美しい所作も学び、ものを大切に扱う心も育てられるようになる。  
姿勢・フラットウォーキング・ヒールウォーキング・所作トータルでできるようになり、即戦力のある立ち居振る舞いを身につけられるようになる。

**授業計画・内容**

1回目	前期に続き姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。(就職活動に活かせるよう実践を交える)手しぐさの法則は女子学生のみ。ものの丁寧な扱い方(カバンの持ち方・傘の持ち方など)を仕事一つで表現できるようになる。
2回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵な笑顔の作り方」ができるようになる。笑顔のもたらす効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行ってできるようになる。(手鏡ご持参ください。)
3回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りのポイントやコツ、並びにエレガントに魅せるしやがみ方等ができるようになる。
4回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングヒールウォーキングレッスンへ。疲れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)並びにシーン別(仕事・パーティー、カジュアル等)脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの数式を学ぶことができるようになる。
5回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようになる。(企業訪問した際に恥ずかしくないマナーを理解してできるようになる。)
6回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行ってできるようになる。
7回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行ってできるようになる。
8回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行ってできるようになる。
9回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行ってできるようになる。
10回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行ってできるようになる。
11回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行ってできるようになる。
12回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行ってできるようになる。
13回目	試験日
14回目	フィールドバック。
15回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行ってできるようになる。

**評価基準**  
A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法**  
出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。  
・姿勢・ヒールウォーキング 60点  
・ジャケットの脱ぎ方たみ方 40点

**受講生へのメッセージ**  
就職活動で必要不可欠なヒールウォーキングを行っています。ヒールウォーキングが綺麗にできるようになれば、女性としてワンランク上の振る舞いができ自信のある立ち居振る舞いができるようになります。前期同様、引き続き動的ストレッチを行いつつ「厳しく楽しく」学びましょう。

**【使用教科書・教材・参考書】**

## 授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (ウォーキングⅡ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Walking & Posture Ⅱ	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	

### 【担当教員、実務者経験】

大学卒業後、株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。無意識にとっていた自己流の正しいと思う姿勢や歩き方が原因と知り、一般社団法人Cs'でウォーキング講師の資格を取得。その後独立。身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝え企業研修なども行う。現在教室を軸にラジオ出演、イベント、セミナー等幅広く活躍中。

### 【授業の学習内容】

引き続きフラットウォーキングを行いつつ、ヒールウォーキングを身につける。  
また様々なシーンにおいて美しくふるまうコツを具体的に練習していく。  
外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を形で表すためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。  
信頼感の与えられる人材を育てる。

### 【到達目標】

就職活動や冠婚葬祭のシーンにおいて必要不可欠なヒールウォーキングを美しく正しくできるようになる。日常生活での美しい所作も学び、ものを大切に扱う心も育てられるようになる。  
姿勢・フラットウォーキング・ヒールウォーキング・所作トータルでできるようになり、即戦力のある立ち居振る舞いを身につけられるようになる。

### 授業計画・内容

1回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。(就職活動に活かせるよう実践を交える)手ぐさの法則は女子学生のみ。ものの丁寧な扱い方(カバンの持ち方・傘の持ち方など)を仕草一つで表現できるようになる。
2回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵な笑顔の作り方」をできるようになる。笑顔もたらす効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行いできるようになる。(手鏡ご持参ください。)
3回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りのポイントやコツ、並びにエレガントに魅せるしゃがみ方等できるようになる。
4回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 疲れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)並びにシーン別(仕事・パーティー、カジュアル等)脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの数式を学びできるようになる。
5回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようになる。(企業訪問した際に恥ずかしくないマナーを理解してできるようになる。)
6回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
7回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
8回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
9回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
10回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
11回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
12回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
13回目	試験日
14回目	フィールドバック。
15回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・姿勢・ヒールウォーキング 60点 ・ジャケットの脱ぎ方たたみ方 40点
受講生へのメッセージ	就職活動で必要不可欠なヒールウォーキングを行っていきます。ヒールウォーキングが綺麗にできるようになれば、女性としてワンランク上の振る舞いができ自信のある立ち居振る舞いができるようになります。前期同様、引き続き動的ストレッチを行いつつ「厳しく楽しく」学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

## 授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (電話応対Ⅲ)  Telephone ReceptionⅢ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

### 【担当教員 実務者経験】

関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電信電話ユーザ協会講師として電話応対コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会出場者を多数輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロコール協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定Ⅰ種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。

### 【授業の学習内容】

2年次の授業の学び直しとして、社会人に必要不可欠な電話応対スキル・マインドを習得するための講座および演習を行う。  
また、演習は音声録音を基本とし、都度、自身の声を客観的に確認することで強み・弱みを把握し、スキルを高める。

### 【到達目標】

・電話の特性を知ったうえで、就職後に即実践できる電話応対スキル・マインドをブラッシュアップする。

### 授業計画・内容

1回目	・電話と音声表現の応用／音声表現の工夫による印象の変化／発声発音練習／プロミネンス練習／口癖の改善が出来るようになる
2回目	・第一印象強化/電話応対における第一印象の重要性/掛け方と受け方の注意点/言葉遣いの向上を目指すことで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
3回目	・ビジネス時の電話応対強化/企業からの受電応対練習/メモの練習/企業に架電する際のポイントと注意点/企業に問い合わせをする際の架電応対練習をすることで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
4回目	・取次ぎのマナー/取次ぎ練習/担当者不在時の対応ポイント/伝言メモの書き方/担当者不在時の対応練習をすることで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
5回目	・受電応対発表/現在までに学んだ内容を基に受電応対総合練習を行い、発表する。
6回目	・コミュニケーションの重要性/電話における観察スキル/傾聴スキル(相づち、復唱、共感)を繰り返し練習をすることで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
7回目	・質問スキル(クローズ質問、オープン質問)/説明スキル(わかりやすい話し方、好印象の話し方)のブラッシュアップを図る。
8回目	・特殊なパターンの各種問い合わせ対応/問い合わせを受ける際の対応ポイント/問い合わせをする際の対応ポイント/問い合わせ対応練習を行う。
9回目	・受電応対発表/現在までに学んだ内容を基に受電応対総合練習を行い、発表する。
10回目	・クレーム対応(1)/クレーム対応(クレームの定義、お客様心理、クレームの基礎知識、クレームが企業に与える影響)を繰り返し行うことで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
11回目	・クレーム対応(2)/クレーム対応(電話におけるクレーム対応フロー、オープニング、気持ちを静める傾聴、謝罪の種類と使い分け、質問による現状把握)を繰り返し行うことで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
12回目	・クレーム対応(3)/クレーム対応(説明・提案による解決、クロージング)/クレーム対応練習を繰り返し行うことで、自身のスキル・マインドをブラッシュアップできる。
13回目	・期末試験
14回目	・期末試験内容の解説
15回目	・電話応対総合練習/まとめ

評価基準 A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法 出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業においての試験評価は、「筆記+電話応対実技試験点数」とする。

受講生へのメッセージ 就職した際に、顕著にレベル差が表れる電話の応対スキルを伸ばすことで、周りの人たちと自身の差別化を目指しましょう。

### 【使用教科書・教材・参考書】

## 授業シラバス

科目名 (英)	企業研究 (企業研究Ⅲ)  Company Reserch Ⅲ	必修 選択	必須	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30  2	開講区分	曜日/時限

### 【担当教員 実務者経験】

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サーヴィスコンクール世界大会運営委員。 CGB後援サーヴィスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員

### 【授業の学習内容】

企業様(ホテル)よりホテルプロモーションのテーマを頂き、クライアント(ホテル)の現状、プロモーションのターゲット、ゴール等をヒアリングする。授業では、グループワークにより実際にマーケティング、企画立案、提案構築、制作、発表することにより、企画提案書の立案方法、制作方法、プレゼンテーションの技法を学ぶ。

### 【到達目標】

実際に商品化が可能なホテルプロモーションをグループワークで制作することにより、マーケティングによる顧客ニーズの理解、効果的なホテルプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、効果的なプレゼンテーションができるようになる。

### 授業計画・内容

1回目	科目概要・目標解説： 企画書制作の基本が理解できるようになる。
2回目	テーマ発表： 1. 企業訪問、ショールーム、課題説明、情報収集、ヒアリング、質疑応答等。
3回目	科目概要・目標解説： 企画書制作の基本が理解できるようになる。
4回目	研究概要の構築： 1. 企画書の目的設定 2. ゲスタターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出
5回目	研究内容の構築： 1. プランの絞込み 2. 提案内容の実行できる方法論の策定 3. 予算、スケジュールの策定 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認
6回目	プレゼンテーション内容決定： 1. 問題点の整理 2. 提案内容(プラン)の決定 3. 提案のメリット構築 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法の決定。
7回目	プレゼンテーション資料作成： 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
8回目	プレゼンテーション資料作成： 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
9回目	プレゼンテーション資料完成： 1. プレゼンテーション内容の確認、精査、修正等 2. 最終準備
10回目	第1回プレゼンテーション： 1. プレゼンテーション 2. フィードバック
11回目	プレゼンテーション内容レビュー： 1. 企画書の目的設定精査 2. ゲスタターゲットの設定精査 3. プレゼンテーション・プランの最終決定
12回目	プレゼンテーション内容レビュー： 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
13回目	授業内プレゼンテーション： 1. 授業内でのプレゼンテーション 2. レビュー 3. 内容の最終確認、精査、修正 最終準備
14回目	プレゼンテーション内容レビュー： 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
15回目	最終プレゼンテーション： 1. 各班プレゼンテーション 2. 企業様審査 3. レビュー

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50%+授業態度(授業を聴く態度、制作する態度、チームワーク)10%+企画内容評価40% を評価基準とする。
受講生へのメッセージ	ホテル現場の方からのお話を参考に、実際に商品化できる企画立案を目標としてグループワークにより構築・制作します。企画提案を実践することにより、他者の意見や業界の様々な考え方の基礎を学ぶ事が出来ます。

### 【使用教科書・教材・参考書】

授業のテーマについて、講師が参考資料を適宜準備する。  
使用ソフト: Power Point 他

## 授業シラバス

科目名 (英)	企業研究 (企業研究IV)  Company Reserch IV	必修 選択	必須	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30  2	開講区分	曜日/時限

**【担当教員\_実務者経験】**

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サービスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サービスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員

**【授業の学習内容】**

企業様(ホテル)よりホテルプロモーションのテーマを頂き、クライアント(ホテル)の現状、プロモーションのターゲット、ゴール等をヒアリングする。授業では、グループワークにより実際にマーケティング、企画立案、提案構築、制作、発表することにより、企画提案書の立案方法、制作方法、プレゼンテーションの技法を学ぶ。

**【到達目標】**

実際に商品化が可能なホテルプロモーションをグループワークで制作することにより、マーケティングによる顧客ニーズの理解、効果的なホテルプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、効果的なプレゼンテーションができるようになる。

### 授業計画・内容

1回目	科目概要・目標解説: 企画書制作の基本が理解できるようになる。
2回目	テーマ発表: 1. 企業訪問、ショールーム、課題説明、情報収集、ヒアリング、質疑応答等。
3回目	科目概要・目標解説: 企画書制作の基本が理解できるようになる。
4回目	研究概要の構築: 1. 企画書の目的設定 2. ゲスタターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出
5回目	研究内容の構築: 1. プランの絞り込み 2. 提案内容の実行できる方法論の策定 3. 予算、スケジュールの策定 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認
6回目	プレゼンテーション内容決定: 1. 問題点の整理 2. 提案内容(プラン)の決定 3. 提案のメリット構築 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法の決定。
7回目	プレゼンテーション資料作成: 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
8回目	プレゼンテーション資料作成: 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
9回目	プレゼンテーション資料完成: 1. プレゼンテーション内容の確認、精査、修正等 2. 最終準備
10回目	第1回プレゼンテーション: 1. プレゼンテーション 2. フィードバック
11回目	プレゼンテーション内容レビュー: 1. 企画書の目的設定精査 2. ゲスタターゲットの設定精査 3. プレゼンテーション・プランの最終決定
12回目	プレゼンテーション内容レビュー: 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
13回目	授業内プレゼンテーション: 1. 授業内でのプレゼンテーション 2. レビュー 3. 内容の最終確認、精査、修正 最終準備
14回目	プレゼンテーション内容レビュー: 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
15回目	最終プレゼンテーション: 1. 各班プレゼンテーション 2. 企業様審査 3. レビュー
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50%+授業態度(授業を聴く態度、制作する態度、チームワーク)10%+企画内容評価40%を評価基準とする。
受講生へのメッセージ	ホテル現場の方からのお話を参考に、実際に商品化できる企画立案を目標としてグループワークにより構築・制作します。企画提案を実践することにより、他者の意見や業界の様々な考え方の基礎を学ぶ事が出来ます。

**【使用教科書・教材・参考書】**

授業のテーマについて、講師が参考資料を適宜準備する。  
使用ソフト: Power Point 他

## 授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメント・アドバンスⅠ)	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
	Core Management Advance I	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限
学科	IR・ホテル&リゾート科					

**【担当教員 実務者経験】**

プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。

**【授業の学習内容】**

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

**【到達目標】**

＜コアマネジメント＞人による言葉の違いと効果的な使い方を理解し、相手の心にきちんと届く言葉を効率よく活用することができる  
 気質学＞生まれ持っている人間の4つのエネルギーバランスから、人との接し方を理解し、「場に合わせた行動」を実践することができる  
 ＜特別講義＞学生から新入社員(社会人)として成果、結果をだしやすい、企業が求める人材のコンピテンシーである能力、知識、コミュニケーション技術に渡って、意識してそれを必要時に選択でき、効果的に発信できるようになる。

**授業計画・内容**

1回目	(特別講義①)～オリエンテーション-何を学ぶのか、どのように効果的に学ぶのか～ 企業や現在の社会ニーズとしてオンライン(テレワーク)を導入されている企業も多く、オンラインとリアルとの融合をテーマにオンラインにて効果的に学習をすすめる為の方法について理解し、オンラインに対応できるようになる。皆さまとのラポール(心理的安全性)を創り出し、強いチームになる素地を築き上げます
2回目	(気質学基礎知識①)4つのエネルギーの特徴について復習し、理解を深める
3回目	(気質学基礎知識③)第4の扉の問題点と対処法を理解することができる
4回目	(気質学基礎知識⑤)4つのエネルギーのタイプ別の相性と攻略法を理解することができる(2)
5回目	(気質学基礎知識⑦)接客における4つのエネルギーのタイプ別の接し方を理解することができる(2)
6回目	(特別講義②)～イントロダクション-なぜ学ぶのか、何を学ぶのか～ 企業人事に求められる人材になる為に必要なことを理解する質の高いコミュニケーション、場創りメソッドを理解することができるようになる
7回目	(気質学基礎知識⑨)4つのエネルギーのタイプ別の指導の仕方・褒め方を理解することができる(2)
8回目	(特別講義③)～主体性を作り出す～ 圧倒的な成果を創り出す為の「場創り」(意識・質の高いコミュニケーションを使えるようになる)を再現性高く生み出す知識・技術力が身につく、成果を出しやすい自分自身の習慣を理解することができるようになる
9回目	(気質学基礎知識の応用②)4つのエネルギーの特徴を学び人間関係を円滑にする方法を理解することができる(2)
10回目	(コアマネジメント基礎知識①)心理学的な脳の仕組みについて復習し、理解を深める(1)
11回目	(コアマネジメント基礎知識③)自分自身の内面に意識を向ける方法を理解することができる
12回目	(特別講義④)～ゴールイメージを思い描く～ チームが一丸となる 理念浸透の構造理解と圧倒的Vision構築ができるようになる
13回目	(コアマネジメント基礎知識⑥)自分の内面とコミュニケーションをとって、自分自身を知ることができる(1)
14回目	(特別講義⑤)～最優先事項を優先する～ 成果に繋がるリーダーシップと効果性の高い時間管理を理解し、使えるようになる
15回目	前期授業内容の理解度確認と復習(1)／影響言語診断テスト

**評価基準**

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法**

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。  
 ・テスト演習50%  
 ・制作課題の提出率および完成度50%

**受講生へのメッセージ**

ベーシックでの学びをさらに深め、影響言語も学ぶことで、コミュニケーションスキルが格段と上がります。社会人直前の準備として、様々な年代、様々なタイプの人に対応できるコミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。

**【使用教科書・教材・参考書】**

・コアマネジメントアドバンス／一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構の気質学

・禁断

## 授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (フォートロジー気質学 I)	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
	Fortology I	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限
学科	IR・ホテル&リゾート科					

**【担当教員 実務者経験】**

ブライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。

**【授業の学習内容】**

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとっても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

**【到達目標】**

<コアマネジメント> 人による言葉の違いと効果的な使い方を理解し、相手の心にきちんと届く言葉を効率よく活用することができる  
 気質学> 生まれ持っている人間の4つのエネルギーバランスから、人との接し方を理解し、「場に合わせた行動」を実践することができる

**授業計画・内容**

1回目	(オリエンテーション) 前期授業内容を説明し、学ぶ意義を理解することができる
2回目	(気質学基礎知識②) 第1の扉と第2の扉の組み合わせにより、変化する特徴を理解することができる
3回目	(気質学基礎知識④) 4つのエネルギーのタイプ別の相性と攻略法を理解することができる(1)
4回目	(気質学基礎知識⑥) 接客における4つのエネルギーのタイプ別の接し方を理解することができる(1)
5回目	気質学基礎知識①～⑦での授業内容の理解度の確認と復習
6回目	(気質学基礎知識⑧) 4つのエネルギーのタイプ別の指導の仕方・褒め方を理解することができる(1)
7回目	(気質学基礎知識⑩) 4つのエネルギーのタイプ別のノルマに対する反応を理解することができる
8回目	(気質学基礎知識の応用①) 4つのエネルギーの特徴を学び人間関係を円滑にする方法を理解することができる(1)
9回目	気質学基礎知識 前期授業内容の理解度の確認と復習
10回目	(コアマネジメント基礎知識②) 心理学的な脳の仕組みについて復習し、理解を深める(2)
11回目	(コアマネジメント基礎知識④) 情報の認識は自分の世界観であり、それが外的表現に現れることを理解することができる
12回目	(コアマネジメント基礎知識⑤) 自分にとって良い助言者の存在や、スポンサーシップを理解することができる
13回目	(コアマネジメント基礎知識⑦) 自分の内面とコミュニケーションをとって、自分自身を知ることができる(2)
14回目	(コアマネジメント基礎知識⑨) 心理的に作用する言語の組み立て方を理解することができる
15回目	授業内容の理解度確認と復習(2)

**評価基準**

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法**

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。  
 ・テスト演習50%  
 ・制作課題の提出率および完成度50%

**受講生へのメッセージ**

ベーシックでの学びをさらに深め、影響言語も学ぶことで、コミュニケーションスキルが格段と上がります。社会人直前の準備として、様々な年代、様々なタイプの人に対応できるコミュニケーションスキルの習得はとて重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。

**【使用教科書・教材・参考書】**

・コアマネジメントアドバンス／一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構の気質学

・禁断

## 授業シラバス

科目名 (英)	経営管理 I (ホテルマネジメント I)  Hotel Management I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30  2	開講区分	曜日/時限

**【担当教員 実務者経験】**

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催サーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サーヴィスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員

**【授業の学習内容】**

ホテル全体のマネジメント、部門別(オペレーション部門、サポート部門)のマネジメントの方法論、ホテルビジネストレンドをホテル現場での具体的な事例を挙げて解説する。

**【到達目標】**

ロジックを持った実際のホテルマネジメントを学ぶことにより、ホテルビジネスの様々な方法論、マーケティング論と現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サーヴィス、オペレーションの意味を理解する事が出来る。

### 授業計画・内容

1回目	ホテルマネジメントの基本原則を理解できる: 1. 科目の概要、目標解説 2. ホテルマネジメントの概要 3. 経営マネジメント 4. 運営マネジメント
2回目	ホテルの経営形態を理解できる: 1. ホテルにおける所有・経営・運営 2. ホテルの資産マネジメント 3. ホテルの経営方式
3回目	世界のホテルビジネスを理解できる: 1. ホテルカテゴリー 2. ホテルビジネスのトレンド(世界・日本)
4回目	外資系ホテルと日系ホテルの特徴を理解できる: 1. オペレーションシステムとサーヴィス 2. ホテルブランドの確立と戦略 3. レベニューマネジメント
5回目	ホテルの収益構造を理解できる: 1. ホテルの売上げ構成比率 2. 部門別収益構造の違い 3. GOP
6回目	部門別マネジメント(Rooms Division)を理解できる: 1. KPIと計数管理 2. 客室稼働率 3. ADR 4. Rev PAR 5. Double Occupancy 6. Room Rate 7. Revenue Management
7回目	部門別マネジメントFood & Beverage を理解できる: 1. 料飲部門のマネジメント 2. 料飲部門の収益構造と特徴 3. レストランにおけるKPI 4. Revenue Management
8回目	部門別マネジメントFood & Beverage を理解できる: 1. 料飲部門のマネジメント 2. 料飲部門の収益構造と特徴 3. レストランにおけるKPI 4. Revenue Management
9回目	部門別マネジメントBanquet Service を理解できる: 1. 一般宴会部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 2. ウェディング部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 3. ホテルのプライダル戦略
10回目	部門別マネジメントSales & Marketing を理解できる: 1. マーケティング 2. セールス 3. 営業推進部門
11回目	部門別マネジメントHuman Resources を理解できる: 1. 人材マネジメント(外資系ホテルと日系ホテルとの違い) 2. トレーニングシステム
12回目	リスク・マネジメント(危機管理)を理解できる: 1. リスク・マネジメントとは 2. リスク・ファクター 3. 危機管理における[4R]コンセプト
13回目	ホテル総支配人の役割を理解できる: 1. ホテル部門の配置 2. 総支配人の仕事 3. 外資系・日系ホテル組織の相違点 4. 小規模ホテルと旅館
14回目	前期試験: 1. 用語定義・概念解説 2. 論述式
15回目	振り返り: 1. 後期試験解説 2. その他質疑応答

**評価基準**

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法**

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験」とする。

**受講生へのメッセージ**

ホテルリエとしての目標を達成する為に、日々の業務の理由付けを行い、ロジックを持ったホテルマネジメント学習が必要です。この授業では具体的な例を挙げて、分かり易くホテルマネジメントの基本と部門別のマネジメントを学びます。

**【使用教科書・教材・参考書】**

毎回のテーマについて、講師がレジュメを準備する。  
参考書籍: ホテルマネジメント、ホテル・ビジネス・ブック、観光庁統計資料等。

## 授業シラバス

科目名 (英)	経営管理Ⅰ (ホテルマネジメントⅡ)	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
	Hotel ManagementⅡ	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	

### 【担当教員 実務者経験】

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サーヴィスココンクール世界大会運営委員。CGB後援サーヴィスココンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員

### 【授業の学習内容】

ホテル全体のマネジメント、部門別(オペレーション部門、サポート部門)のマネジメントの方法論、ホテルビジネストレンドをホテル現場での具体的な事例を挙げて解説する。

### 【到達目標】

ロジックを持った実際のホテルマネジメントを学ぶことにより、ホテルビジネスの様々な方法論、マーケティング論と現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事が出来る。

### 授業計画・内容

1回目	部門別マネジメントRooms Division を理解できるようになる。 1. KPIと計数管理 2. 客室稼働率 3. ADR 4. Rev PAR 5. Double Occupancy 6. Room Rate 7. Revenue Management
2回目	部門別マネジメントRooms Division を理解できるようになる。 1. KPIと計数管理 2. 客室稼働率 3. ADR 4. Rev PAR 5. Double Occupancy 6. Room Rate 7. Revenue Management
3回目	部門別マネジメントFood & Beverage を理解できるようになる。 1. 料飲部門のマネジメント 2. 料飲部門の収益構造と特徴 3. レストランにおけるKPI 4. Revenue Management
4回目	部門別マネジメントFood & Beverage を理解できるようになる。 1. 料飲部門のマネジメント 2. 料飲部門の収益構造と特徴 3. レストランにおけるKPI 4. Revenue Management
5回目	部門別マネジメントFood & Beverage を理解できるようになる。 1. 料飲部門のマネジメント 2. 料飲部門の収益構造と特徴 3. レストランにおけるKPI 4. Revenue Management
6回目	部門別マネジメントBanquet Service を理解できるようになる。 1. 一般宴会部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 2. ウェディング部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 3. ホテルのプライダル戦略
7回目	部門別マネジメントBanquet Service を理解できるようになる。 1. 一般宴会部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 2. ウェディング部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 3. ホテルのプライダル戦略
8回目	部門別マネジメント Sales & Marketing を理解できるようになる。 1. マーケティング 2. セールス 3. 営業推進部門
9回目	部門別マネジメント Sales & Marketing を理解できるようになる。 1. マーケティング 2. セールス 3. 営業推進部門
10回目	部門別マネジメント Sales & Marketing を理解できるようになる。 1. マーケティング 2. セールス 3. 営業推進部門
11回目	リスク・マネジメント(危機管理)を理解できるようになる。 1. リスク・マネジメントとは 2. リスク・ファクター 3. 危機管理における[4R]コンセプト
12回目	ホテル総支配人の役割を理解できるようになる。 1. ホテル部門の配置 2. 総支配人の仕事 3. 外資系・日系ホテル組織の相違点 4. 小規模ホテルと旅館
13回目	試験: 1. 用語定義・概念解説 2. 論述式
14回目	振り返り1: 試験解説、その他質疑応答
15回目	振り返り2: ホテル・マネジメントⅡ 総括

### 評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

### 評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験」とする。

### 受講生へのメッセージ

ホテルエとしての目標を達成する為に、日々の業務の理由付けを行い、ロジックを持ったホテルマネジメント学習が必要です。この授業では具体的な例を挙げて、分かり易くホテルマネジメントの基本と部門別のマネジメントを学びます。

### 【使用教科書・教材・参考書】

毎回のテーマについて、講師がレジュメを準備する。  
参考書籍: ホテルマネジメント、ホテル・ビジネス・ブック、観光庁統計資料等。

## 授業シラバス

科目名 (英)	インバウンド I (MICEビジネス概論 I)  MICE Business I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総コマ数 (単位)	30  2	開講区分	曜日/時限

**【担当教員 実務者経験】**

旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ出向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。G20大阪サミット関西推進協力協議会特別アドバイザーとして、G20の準備から開催まで一貫して関わった。韓国MICE産業協会諮問委員、MPI Japan Chapter 会長、観光庁MICE推進検討委員会委員を歴任し、日本のMICE業界の発展に尽力する。

**【授業の学習内容】**

MICEビジネスとは何か、関連する仕事や施設も含めて総合的に学ぶ。またMICEビジネスの歴史と現状・今後の発展について学び、仕事の面白さ・楽しさを理解する。

**【到達目標】**

MICEについての概要・業務内容を理解し、MICEビジネスの成り立ちや業界における役割、今後の発展について説明できるようになる。

### 授業計画・内容

1回目	<b>ガイダンス-MICE産業とは？</b> 一般的には未だあまり理解されていないMICE産業についての概念を知る
2回目	<b>Meeting(企業会議、企業イベント)ビジネスの世界</b> 一般に知られることの少ない企業イベントについて実例を踏まえて、その業務に携わる面白さや楽しさなどについて知る。
3回目	<b>Incentive(報奨旅行)ビジネスの世界</b> MICEビジネスの中でも最も知られにくいインセンティブパーティーについて、その業務の面白さや楽しさなどについて知る。
4回目	<b>Convention(国際会議)ビジネスの世界</b> 国際会議を運営するさまざまな関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
5回目	<b>Exhibition(展示会)ビジネスの世界</b> 展示会運営に携わる様々な関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
6回目	<b>MICE産業の歴史</b> 世界や日本のMICE産業の歴史を成り立ちから現在に至るまでどのような過程を経てきたかを理解し、今後のMICE産業の発展について理解する。
7回目	<b>MICE産業の現状①(世界、日本)</b> 世界や日本におけるMICE産業の実態や現在のトレンド等について理解を深める。
8回目	<b>MICE産業の現状②(大阪)</b> 大阪におけるMICE産業の実態についてG20大阪サミット開催実例等を含めて理解し、今後大阪にとってのMICEビジネスの重要性について知る。
9回目	<b>MICE産業を支える仕事①(観光庁、JNTO、コンベンションビューロー)</b> 公的な立場でMICE産業を支える国、自治体参加の組織についてその役割や活動について知識を深める。
10回目	<b>MICE産業を支える仕事②(PCO、PEO、イベント会社等)</b> MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
11回目	<b>MICE産業を支える仕事③(ケータリング、旅行業等)</b> MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
12回目	<b>MICE産業を支える施設①(国際会議場)</b> MICE産業とは一面装置産業であり、その中でも特に大きな役割を果たす国際会議場の役割について理解を深める。
13回目	<b>前期試験</b>
14回目	<b>国際会議場視察(国立京都国際会館)</b> 日本最古で唯一の国立国際会議場である国立京都国際会議場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに細部を視察し理解を深める。
15回目	<b>前期講義のレビュー</b>

**評価基準**

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法**

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。  
・前期試験の点数

**受講生への  
メッセージ**

**【使用教科書・教材・参考書】**

## 授業シラバス

科目名 (英)	インバウンド I (MICEビジネス概論 II)	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
	MICE Business II	授業 形態	講義 演習	総コマ数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	

### 【担当教員 実務者経験】

旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ出向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。G20大阪サミット関西推進協力協議会特別アドバイザーとして、G20の準備から開催まで一貫して関わった。韓国MICE産業協会諮問委員、MPI Japan Chapter 会長、観光庁MICE推進検討委員会委員を歴任し、日本のMICE業界の発展に尽力する。

### 【授業の学習内容】

展示場・ホテル・ユニークベニュー等のMICEビジネス関連施設を実際に視察しながら、具体的な仕事内容についてイメージし、理解を深める。

### 【到達目標】

MICEビジネスが実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し、実務内容について説明できるようになる。

### 授業計画・内容

1回目	MICE産業を支える施設と仕事②(展示場) 地域の経済産業の活性化に必要な不可欠装置である展示場の役割について理解を深める。
2回目	展示場視察(インテックス大阪) 西日本最大規模の本格的展示場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに展示場細部を視察し理解を深める。
3回目	MICE産業を支える施設と仕事③(ホテル) ホテルのMICE機能について知識を深め、どのようなMICEビジネスを受入れ運営するかについての理解を深める。
4回目	ホテル視察(ハイアットリージェンシー大阪・ホテルン大阪) MICEビジネスの取り組みに実績のある外資系ホテルを訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受け、ホテルにおけるMICEビジネスの理解を深める。
5回目	国際会議の作り方 国際会議が実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し国際会議ビジネスについて理解を深める。
6回目	展示会の作り方 展示会がどのように企画され、実施されていくかの一連の流れを把握し展示会ビジネスについての理解を深める。
7回目	インセンティブ・イベントの作り方 MICEビジネスの中で一般ではほとんど触れることのないインセンティブ・イベントについて映像等の事例も踏まえ実態を把握し理解を深める。
8回目	国際会議におけるプロトコール 国際会議、特にハイレベル国際会議受入れに必要な不可欠なプロトコール(国際儀礼)についてG20サミットの実例などを踏まえて理解を深める。
9回目	ユニークベニューの開発と活用 ユニークベニューの概念や実際にどのように開発し活用していくかを事例を踏まえて理解し、開発や活用に関する演習を行う。
10回目	ユニークベニュー視察(大阪中津公園公園、大阪中津公園公園) 大阪で実際に活用されているユニークベニューを訪問し、担当者から施設の概要やMICEイベントを開催する際の留意点などをの説明を受け理解を深める。
11回目	MICEビジネスの統計、経済波及効果及びMICE商品の作り方 MICEビジネスの効果測定に必要な統計や経済波及効果について理解を深めるとともに経済波及効果を高めるために必要なMICE商品の作り方について理解を深める。
12回目	MICEトレードショーの実務体験(インターンシップ)2020年12月2日(水) 大阪観光局が主催するMICEトレードショー「大阪MICEデスティネーション・ショーケース2020」の運営に一部携わり、展示商談会の運営を実体験する。
13回目	後期試験
14回目	IR(統合型リゾート)におけるMICEビジネス 今後の日本におけるMICEビジネスにとって重要な施設となるIR内のMICE施設に関して知識を深めるとともに、今後のビジネスへの発展性について理解を深める。
15回目	MICEビジネス概論総括 2020年度の講義を振り返り理解を深めるとともに、次年度実施される海外実習でのMICEビジネス実務習得のポイントを認識する。

### 評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

### 評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。  
・後期試験の点数

### 受講生への メッセージ

### 【使用教科書・教材・参考書】

## 授業シラバス

科目名 (英)	インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅠ)  Gloval Hospitality I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30  2	開講区分	

**【担当教員 実務者経験】**

株式会社JALスカイ大阪に勤務。伊丹空港のグランドスタッフとしてVIPのお客様を数多く対応している。

**【授業の学習内容】**

訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。  
前期では、訪日外国人に対しての基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。

**【到達目標】**

訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。  
また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。

### 授業計画・内容

1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 日本のインバウンドの現状を理解する。
2回目	IRの仕組み、可能性と課題を理解した上で議論し、考えを深めることができる。
3回目	表情、挨拶、身だしなみ、話し方、仕草の重要性を理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
4回目	初対面のお客様と英語で自己紹介・挨拶(お辞儀、握手)をすることができるようになる。
5回目	多文化において様々なタブー(宗教、政治など)があることを理解し、どのように対応すればいいかを学ぶことができる。
6回目	顧客満足とは何かを理解することができる。
7回目	フォーマルな場での席次とドレスコードについて理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
8回目	VIP対応の基本的なマインドを理解し、日本語・英語ロールプレイングで実践することができる。
9回目	英語で道案内ができるようになる。
10回目	関西の観光スポットを英語で紹介することができるようになる。
11回目	日本の観光名所を英語で紹介することができるようになる。
12回目	インバウンドのお客様に食事を提供する際に気を付けることを理解し、その際に使う英語フレーズを学ぶことができる。
13回目	メニューをつくらう:日本料理を英語で表現することができるようになる。
14回目	期末試験
15回目	試験・前期授業の振り返り

**評価基準**

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法**

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。  
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。  
・期末試験の点数

**受講生への  
メッセージ**

**【使用教科書・教材・参考書】**

## 授業シラバス

科目名 (英)	インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅡ)  Gloval Hospitality II	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30  2	開講区分	曜日/時限

**【担当教員 実務者経験】**

株式会社JALスカイ大阪に勤務。伊丹空港のグランドスタッフとしてVIPのお客様を数多く対応している。

**【授業の学習内容】**

訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。  
前期では、訪日外国人に対する基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。

**【到達目標】**

訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。  
また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。

### 授業計画・内容

1回目	前期の復習:VIP対応の基本マインドを理解し、日本語ロールプレイングを実践することができる。
2回目	前期の復習:VIP対応の基本マインドを理解し、英語ロールプレイングを実践することができる。
3回目	国際儀礼とドレスコード 席次、フォーマル、セミフォーマルについて理解し、関連する語彙を学ぶことができる。
4回目	日本の食べ物を英語で表現 一汁三菜、そば、天麩羅、しゃぶしゃぶ、寿司などについて英語で表現することができる。
5回目	プレゼンテーション①:日本の伝統的な食べ物をひとつ選び、英語でプレゼンすることができる。
6回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。
7回目	日本の習慣を英語で表現 靴を脱ぐ習慣、畳、挨拶の仕方などについて英語で表現することができる。
8回目	プレゼンテーション②:日本の習慣をひとつ選び、英語でプレゼンすることができる。
9回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。
10回目	ホームタウンを英語で表現 自分の生まれた土地、住んでいる土地について英語で表現することができる。
11回目	プレゼンテーション③:ホームタウンについて英語でプレゼンすることができる。
12回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。
13回目	期末試験の準備
14回目	期末試験
15回目	試験・前期授業の振り返り
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末試験の点数
受講生へのメッセージ	
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b>	

## 授業シラバス

科目名 (英)	ブライダルビジネス (フラワーデザイン I)  Flower design I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30  2	開講区分	曜日/時限

### 【担当教員 実務者経験】

2007年フローリストナナ開業、2011年国家検定1級フラワー装飾技能士資格取得、大阪府知事認定講師資格取得。高島屋・スイスホテルの装飾やドレスショップ THE HANYの専属フラワーコーディネーターを務める。その他、ペイサイド迎賓館、セントフォーリアなどのゲストハウス在中フローリストを務めるなど。花全般多岐にわたる事業に携わる。2019年G20にも参画

### 【授業の学習内容】

サービス業のホスピアアイテムとして欠かせない事の出来ない花についての役割を知り、花が持つセラピー要素、また色彩感覚、空間コーディネートに触れる事により、提案力の高いサービスマンを目指す事が出来るようになる

### 【到達目標】

日本人の生活習慣に馴染みのない花がホスピタリティにどのように関係するかを意識できるようになる。また、感性を刺激し、新たな視野をもてるようになるようになる

### 授業計画・内容

1回目	オリエンテーション
2回目	花の流通と花の持つ特性。また各々の場所での役割や価格についてを知る事ができる
3回目	フラワーアレンジメントが作れるようになる
4回目	ブライダルブーケが作れるようになる
5回目	造花フラワーリースが作れるようになる
6回目	プリザーブドフラワーBOXアレンジが作れるようになる
7回目	ハーバリウムが作れるようになる
8回目	ドライフラワーのクリスマスリースが作れるようになる
9回目	レジンアクセサリーが作れるようになる
10回目	お花(造花)の仕入れが出来るようになる(成人式のお花購入)
11回目	オリジナルデザインの頭飾りが作れるようになる(成人式のお花作成)
12回目	作品のイメージ画制作、個の感性を磨く事が出来るようになる
13回目	作品作成を通じて、花を使ったおもてなしを習得する
14回目	(4限、5限で、開講)
15回目	花言葉・アニバーサリーフラワーなどの意味を知る事ができる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・作品制作への取り組み姿勢及び、技術点70% ・学んだ事を今後どのように活かすかをテーマにしたレポート30%
受講生へのメッセージ	

### 【使用教科書・教材・参考書】

--

## 授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光Ⅰ (国際観光Ⅰ)  International Tourism I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30  2	開講区分	曜日/時限

**【担当教員\_実務者経験】**

1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

**【授業の学習内容】**

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特徴、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

**【到達目標】**

・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる。  
・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

### 授業計画・内容

1回目	ガイダンス、国際観光(インバウンド)の歴史、インバウンドの仕事の種類と内容について把握できるようになる
2回目	インバウンドの仕事に必要な知識について 外国人に人気の観光地を各自研究 課題研究—提出出来る様になる
3回目	人気観光地研究 国別マナーや習慣(宗教含む)を研究-留意点と心得(対応)を理解出来る様になる
4回目	人気観光地研究、大阪等近畿周辺) 国別人気観光地の研究 各業種の外交人受け入れ対策について 課題研究—提出出来る様になる
5回目	インバウンド英語 基礎英語表現について 挨拶等の会話が出来る様になる
6回目	インバウンド英語 道案内が出来る様になる
7回目	インバウンド英語 買い物 食事の案内が出来る様になる
8回目	インバウンド英語 想定される質問や日本で困る事に対応出来る様になる
9回目	インバウンド英語 観光案内英語① 2コマ対応の日程を考える—発表—実施案決定、出来る様になる
10回目	インバウンド英語 観光地案内② 各担当決定、観光案内、誘導&交通機関の案内等出来る様になる
11回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成①が出来る様になる
12回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成②が出来る様になる
13回目	理解度確認テスト実施
14回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験出来る様になる
15回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験できるようになる

**評価基準**

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法**

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。  
・筆記試験50点  
・課題レポート50点

**受講生への  
メッセージ**

国際観光、インバウンドが急性増しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらう事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。

**【使用教科書・教材・参考書】**

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語)  
ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

## 授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光Ⅰ (国際観光Ⅱ)  International TourismⅡ	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30  2	開講区分	曜日/時限

### 【担当教員 実務者経験】

1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

### 【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

### 【到達目標】

- ・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる。
- ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

### 授業計画・内容

1回目	前期の復習:前期で学んだ英語表現を用いて、グループごとにロールプレイングを実施することができる。
2回目	日本をプレゼン①:外国人観光客が日本に求めることを調べてまとめ、英語でプレゼンテーションをすることができる。
3回目	日本をプレゼン②:外国人観光客が日本に求めることを調べてまとめ、英語でプレゼンテーションをすることができる。
4回目	日本をプレゼン③:外国人観光客が日本に求めることを調べてまとめ、英語でプレゼンテーションをすることができる。
5回目	eメールでのやりとり:インバウンド観光客とのeメールのやり取りについて、基本的な英語フレーズを理解し使用することができる。
6回目	お土産を勧めよう①:観光客へ日本ならではのお土産を購入してもらうため、英語で適切に商品説明をすることができる。
7回目	お土産を勧めよう②:観光客へ日本ならではのお土産を購入してもらうため、英語で適切に商品説明をすることができる。
8回目	雑談力アップのコツ:旅行中の観光客との雑談をテーマにロールプレイングを実施することができる。
9回目	空港にて①:空港で到着/出発する観光客を英語で案内することができる。
10回目	空港にて②:キャビンアテンダントやグランドスタッフが使用する英語を理解できる。
11回目	インバウンドツアープランニング①:国内の観光地を一箇所選び、インバウンド観光客向けにツアーを企画することができる。
12回目	インバウンドツアープランニング②:作成したツアーの広告、宣伝を英語で作成することができる。
13回目	インバウンドツアープランニング③:作成したツアー内容を英語でプレゼンすることができる。
14回目	理解度確認テスト実施
15回目	1年間の振り返り

### 評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

### 評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。  
・筆記試験50点  
・課題レポート50点

### 受講生への メッセージ

国際観光、インバウンドが急成長している中、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらう事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。

### 【使用教科書・教材・参考書】

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり! (日本語)  
ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編 (日本語)

## 授業シラバス

科目名 (英)	資格取得講座 I (手話 I)  Sign Language I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30  2	開講区分	曜日/時限
<b>【担当教員、実務者経験】</b>							
手話通訳士として、現在当市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。							
<b>【授業の学習内容】</b>							
聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。							
<b>【到達目標】</b>							
職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようにする。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション 聴覚障害者とのコミュニケーション方法について考える 基本接客用語を学ぶ
2回目	接客の基本である挨拶の手話を学ぶ。指文字を学ぶ(清音)。
3回目	日程や曜日に使う数字を覚える。宿泊費や渡航費、予約日や時間を表現できるようにする。指文字を学ぶ(清音)。
4回目	七條会話や予約の時に使える人や家族、色などの手話を学ぶ。指文字を学ぶ(濁音・半濁音など)。
5回目	仕事や職業の手話を学ぶ。自分の職業を紹介できるようにする。指文字を15回目までに読み取れるようにする。
6回目	趣味の手話を学ぶ。主に日常会話で使えるようにする。指文字の復習。
7回目	疑問の手話を学び、お客様に質問できるようにする。指文字の復習。
8回目	動詞を学ぶ。フロントでの会話を考え、手話表現を学ぶ。指文字の復習。
9回目	楽しいや悲しいなど感情の手話を使ってコミュニケーションすることを学ぶ。指文字の復習。
10回目	テキストの例文を日常生活に置き換え、学習する。カウンターでの会話を考え、手話表現を学ぶ。指文字の復習。
11回目	聴覚障害者との交流会。学習した手話を使ってコミュニケーションする方法を学ぶ。
12回目	前回の交流会を踏まえて、疑問点などの解決方法を学ぶ。
13回目	朝食や夕食、機内食などで使う食べ物の手話を学ぶ。
14回目	前期試験(手話技能検定5級と会話試験) 模擬試験と1～13回の講義の内容を駆使し、講師からの手話の質問に答える。
15回目	前期のまとめとこれからの目標(手話技能検定4級受験)について
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験(手話技能検定5級) 50点 ・実技試験(実技試験30点 授業内実技20点) 50点 ・上記2点を合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	実は、「手話」という言語は、英語と同じで日本語とは違う言語です。まったく違う言語を学ぶという意識を持ってください。ですが、決して難しい言語ではありません。普段、みなさんが使っている身振り手振りが手話になっているものもたくさんあります。手で心を伝える、相手と通じ合える楽しさをぜひ知っていただき、それを自身の仕事に生かすために、一緒に学習しましょう。手話技能検定5級受験も推奨しています。
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b>	
手話技能検定公式テキスト 5・6・7級 手話技能検定公式テキスト3・4級	

## 授業シラバス

科目名 (英)	資格取得講座 I (手話 II)  Sign Language II	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30  2	開講区分	曜日/時限

### 【担当教員\_実務者経験】

手話通訳士として、現在当市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。

### 【授業の学習内容】

聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。

### 【到達目標】

職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようになる。

### 授業計画・内容

1回目	前期の復習 接客手話の確認 手話技能検定4級について
2回目	乗り物の手話を学ぶ。道案内や路線についての会話を学習する。
3回目	生活の手話を学ぶ。フロントや受付で使用する筆談について学ぶ。
4回目	形容詞・副詞の手話を学ぶ1。ホテル等で聴覚障害者からの依頼や質問に関する会話を学習する。
5回目	形容詞・副詞の手話を学ぶ2。旅行会社等の会話を学習する。
6回目	施設の手話を学ぶ1。ホテル等、館内施設の紹介や案内の会話を学習する。
7回目	施設の手話を学ぶ2。観光施設での会話を学習する。
8回目	これまでの復習及び数の手話を学ぶ。日常会話を学習する。
9回目	都道府県や地名の手話を学ぶ1。フロントやカウンターでの会話(おすすめの場所等)を学習する。
10回目	都道府県や地名の手話を学ぶ2。ツアーや旅行地での会話(おすすめの場所等)を学習する。
11回目	動詞の手話を学ぶ1。各自就職または就職を希望する分野の会話を考え、その会話を学習する。
12回目	動詞の手話を学ぶ2。今後に向けて聴覚障害者とのコミュニケーション方法を再度確認する。
13回目	手話技能検定4級対策。
14回目	後期試験(手話技能検定4級と会話試験) 模擬試験と1～13回の内容を駆使し、講師からの手話の質問に答える。
15回目	後期のまとめとこれからの目標(手話技能検定4級)について

### 評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

### 評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。  
・筆記試験(手話技能検定5級) 50点  
・実技試験(実技試験30点 授業内実技20点) 50点  
・上記2点を合計100点とし、40%計算を行う。

### 受講生への メッセージ

前期での基礎学習後の応用学習です。仕事で活かせる会話文を中心に学習します。ぜひ、自分の将来就業するであろう分野の会話を積極的に提案してください。また、手話技能検定試験4級合格を目指します。こちらは会社からの給料等の評価対象になることもあります。

### 【使用教科書・教材・参考書】

手話技能検定公式テキスト 5・6・7級 手話技能検定公式テキスト3・4級

## 授業シラバス

科目名 (英)	料飲解説 (料飲解説・BAR実習)	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
	Bartender Training II	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限

**【担当教員 実務者経験】**

1994年奈良ホテルに入社以降、宴会食堂部(メインダイニングルーム「三笠」・バー「ザ・バー」・日本料理「花菊」、宴会、婚礼等のサービス)、宿泊部、総務部、経営企画、営業企画、ジェイアール西日本ホテル開発へ出向(ホテルグランヴィア京都にて勤務)等さまざまな業務に携わる。2013年7月、世界最大のカクテルコンペティションである「ディアジオワールドクラス2013」世界大会で「キングス・オブ・フレイバー」部門優勝、アジア・パシフィックチャンピオンを獲得し、総合世界第3位の栄誉に輝いた。現在は、奈良市内にて自身でBARを出店。「バーとカクテルの価値を高める」使命の元、国内外でアンバサダーとしてカクテル作りのワークショップや講演、オリジナルカクテルの開発などを積極的に行っている。

**【授業の学習内容】**

酒類全般の基礎知識とカクテルの実習。

**【到達目標】**

お酒の基礎知識を身に付け、カクテルの基本調合技術(ビルド、シェイク、メジャーカップの使い方)を習得する。  
カクテルを通じてホテルマンとしての身だしなみ、サービスといった基本的な仕事への取り組み方を学ぶ。

**授業計画・内容**

1回目	お酒の基礎知識 お酒の分類について学び説明することができる。
2回目	ワイン① 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる。 白ワイン、赤ワインのテイasting。
3回目	ワイン② 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる。 白ワイン2種の比較テイasting。
4回目	ワイン③ 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる。 赤ワイン2種の比較テイasting。
5回目	ワイン④ 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる。 スパークリングワインのテイasting。
6回目	ウイスキー① 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(ビルド パースプーン、メジャーカップの使い方)をハイボールの制作を通して、習得する
7回目	ウイスキー② 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(ビルド パースプーン、メジャーカップの使い方)をハイボール、ハイボールをアレンジしたカクテルの制作を通して、習得する
8回目	ブランデー 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をアレキサンダーの制作を通して、習得する
9回目	スピリッツ① 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(ビルド カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をジントニックの制作を通して、習得する
10回目	スピリッツ② 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をトミーズマルガリータの制作を通して、習得する
11回目	リキュール① 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をグラスホッパーの制作を通して、習得する
12回目	リキュール② 製造方法を学び、テイastingができるようになり、適正なサービス方法を模索できるようになる カクテル調合技術(ビルド カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をスプモーニの制作を通して、習得する
13回目	試験対策
14回目	試験
15回目	振り返り 復習をしてお酒の楽しさを知ることができる。

**評価基準**

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法**

**出席評価**50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。  
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

- ・実技テスト
- ・
- ・

**受講生への  
メッセージ**

お酒は世界共通のコミュニケーションツールです。  
カクテルを通じてサービスマンの楽しさを学びましょう。

**【使用教科書・教材・参考書】** □

## 授業シラバス

科目名 (英)	料飲解説 (料飲解説・ソムリエ実習)  Sommelier Training I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

**【担当教員 実務者経験】**

ヒルトン大阪に入社し14年勤務。ラウンジ、フレンチ、中華、和食、などを渡りキャプテン、マネージャーと歴任しながらホテルのチーフソムリエとなる。現在は独立して北新地でワインバー「茅田葡萄酒店」を営んでいる。

**【授業の学習内容】**

ワインの基礎知識、ワインのサービス実習、テイastingを行ない、ワインへの造詣を深める。

**【到達目標】**

ホテルマン、サービスマンとして最低限知っておかないといけないワインの基礎知識とワインサービスの基本を修得していただき、ソムリエという専門職への理解を深める。

### 授業計画・内容

1回目	ワインの基本知識を理解することができる
2回目	ワインの製造法やブドウ品種を学ぶことができる
3回目	ワインの開け方を習得できる
4回目	スパークリングワインの開け方を習得できる
5回目	白ワインのテイastingの方法を学ぶことができる
6回目	赤ワインのテイastingの方法を学ぶことができる
7回目	ワインと料理のマリアージュの概念を理解することができる
8回目	フランスワインの種類・特色を学ぶことができる ボルドー編
9回目	フランスワインの種類・特色を学ぶことができる ブルゴーニュ編
10回目	フランスワインの種類・特色を学ぶことができる シャンパーニュ編
11回目	オールドワールドの地域・特色を学ぶことができる
12回目	ニューワールドの地域・特色を学ぶことができる
13回目	期末試験対策
14回目	期末試験
15回目	総まとめ

**評価基準** A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法** 出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「実技試験と筆記試験」とする。

受講生への  
メッセージ

**【使用教科書・教材・参考書】** □

## 授業シラバス

科目名 (英)	ディーリング (カジノディーリング I)  Casino Dealing I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	60  4	開講区分	曜日/時限

**【担当教員 実務者経験】**

ラスベガス・ディーラーズスクールと韓国7LUGKカジノでディーリングトレーニングを修了した後、シンガポール・マリナベイサンズのカジノに勤務。  
 大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授。トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマナー講座の非常勤講師を歴任。  
 日本カジノスクール大阪校のマネージャーとして世界基準のカジノディーラー人材教育とスクール運営。(著書:「IRの有効性とカジノの本質」)  
 大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)

**【授業の学習内容】**

・海外事例にみるIR(統合型リゾート)の有効性  
 ・カジノの本質とレスポンスブルゲーミング

・世界のカジノの歴史と文化  
 ・カジノディーリング実技(基礎・ブラックジャック・バカラ・ルーレット・ポーカー)

・日本IRの有効性(法律・制度設計・開発計画)  
 ・カスタマーサービス

**【到達目標】**

世界で通用するカジノディーリング技術と知識の習得。日本のIRを正しく理解することで将来のIRビジネスへのビジョンを持つこと。

**授業計画・内容**

1回目	IR講義: オリエンテーション、海外IRの成功事例と有効性、世界のカジノの歴史と文化、近隣アジアのIR事例、日本IRの法制化と開発計画
2回目	IR講義: カジノの本質とレスポンスブルゲーミング、カジノディーラーの心得、カジノの組織体系とオペレーション、大阪IR・地元企業の取り組み
3回目	カジノマナー体験: ブラックジャック/ルーレットのテーブルマナーとゲームルールを学ぶことができる
4回目	カジノマナー体験: バカラ/ポーカーのテーブルマナーとゲームルールを学ぶ
5回目	カジノディーリング実技: 基礎(カードシャッフル、マルチデッキシャッフル/チップワーク、ドロップカット、サイジング)を習得できる
6回目	カジノディーリング実技: 基礎(キャッシュチェンジ、カラーチェンジ/クロージングテーブル)を習得できる
7回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(基礎)を習得できる
8回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(基礎)を習得できる
9回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(応用)を習得できる
10回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(応用)を習得できる
11回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(総合)を習得できる
12回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(基礎)を習得できる
13回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(基礎)を習得できる
14回目	期末試験
15回目	映画鑑賞「バグジー」(1991年:150分)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験:実技試験(30問) ・後期試験:筆記試験(いずれか1ゲーム)
受講生へのメッセージ	IR(統合型リゾート)は近い将来日本に誕生する新規産業であり、カジノディーラーは日本で初めて誕生する特殊技能職です。 IRの有効性とカジノの本質をしっかりと理解し、楽しくディーリングを学んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意するハンドアウト資料、プレイングカード(1人に1デッキ配付)	

## 授業シラバス

科目名 (英)	ディーリング (カジノディーリングⅡ)  Casino Dealing Ⅱ	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

### 【担当教員 実務者経験】

ラスベガス・ディーラーズスクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了した後、シンガポール・マリーナベイサンズのカジノに勤務。  
大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロフェッサー養成講座の客員教授。トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマネージャー講座の非常勤講師を歴任。  
日本カジノスクール大阪校のマネージャーとして世界基準のカジノディーラー人材教育とスクール運営。(著書「IRの有効性とカジノの本質」)  
大阪府と地元企業のIR関連アドバイザリー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)

### 【授業の学習内容】

・海外事例にみるIR(統合型リゾート)の有効性  
・カジノの本質とレスポンシブルゲーミング  
・世界のカジノの歴史と文化  
・カジノディーリング実技(基礎・ブラックジャック・バカラ・ルーレット・ポーカー)  
・日本IRの有効性(法律・制度設計・開発計画)  
・カスタマーサービス

### 【到達目標】

世界で通用するカジノディーリング技術と知識の習得。日本のIRを正しく理解することで将来のIRビジネスへのビジョンを持つこと。

### 授業計画・内容

1回目	カジノディーリング実技： ミディバカラ(応用)を習得できる
2回目	カジノディーリング実技： ミディバカラ(応用)を習得できる
3回目	カジノディーリング実技： ミディバカラ(総合)を習得できる
4回目	カジノディーリング実技： ルーレット(基礎)を習得できる
5回目	カジノディーリング実技： ルーレット(基礎)を習得できる
6回目	カジノディーリング実技： ルーレット(応用)を習得できる
7回目	カジノディーリング実技： ルーレット(応用)を習得できる
8回目	カジノディーリング実技： ルーレット(総合)を習得できる
9回目	カジノディーリング実技： テキサスホールデムポーカー(基礎)を習得できる
10回目	カジノディーリング実技： テキサスホールデムポーカー(応用)を習得できる
11回目	カジノディーリング実技： テキサスホールデムポーカー(総合)を習得できる
12回目	カスタマーサービス： ブラックジャック/ルーレットを習得できる
13回目	カスタマーサービス： ミディバカラ/テキサスホールデムポーカーを習得できる
14回目	期末試験
15回目	映画鑑賞「ラスベガスをぶつつぶせ」(2008年:123分)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験: 実技試験(30問) ・後期試験: 筆記試験(いずれか1ゲーム)
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意するハンドアウト資料、プレイングカード(1人に1デッキ配付)	

## 授業シラバス

科目名 (英)	カジノマネジメント (カジノ e-learningⅢ)  Casino e-learning Ⅲ	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60  4	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
【授業の学習内容】							
カジノマーケティングの基本を理解し、マーケティングが経営にどのような影響を及ぼすかを学ぶ。							
【到達目標】							
マーケティングの良否がカジノ組織の経営にどのような影響を及ぼすか論じることができる。							

授業計画・内容	
1回目	カジノ組織におけるマーケティング部門の重要性を理解し、分析することができる。
2回目	様々なカジノの宣伝方法や関連する取り組みを検討することができる。
3回目	スロットクラブとは何かを学び、理解することができる。
4回目	スロットクラブの様々な特性を説明することができる。
5回目	データベースマーケティングの重要性を認識する。
6回目	マッチプレーへの勧誘手法、ゲーム勧誘チップ、伝票の記入方法を習得することができる。
7回目	デッドチッププログラムの基本を説明することができる。
8回目	顧客プレイヤーの損失金の値引きの利点とリスクを比較検討することができる。
9回目	値引きプログラムの作成方法を習得することができる。
10回目	カジノの接客手法、顧客融資の手続きについて学ぶことができる。
11回目	ディールメイキング方針と実践の評価方法を習得することができる。
12回目	カジノにおける娯楽施設の貢献度を理解することができる。
13回目	カジノ組織のためのマーケティング計画を策定することができる。
14回目	オンライン筆記試験
15回目	試験、授業の振り返り
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・オンライン筆記試験の点数
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
『Principles of Casino Marketing』、パソコン、インターネット環境	

## 授業シラバス

科目名 (英)	カジノマネジメント (カジノ e-learningIV)	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
	Casino e-learning IV	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科名	IR・ホテル&リゾート科				4	曜日/時限	

**【担当教員 実務者経験】**

**【授業の学習内容】**

カジノにおけるお客様に対するサービスの理念や実践、管理手法の基本と、それらがいかにカジノの成功に影響するか、サービスの戦略、人材確保の問題、業務体制について学ぶ。

**【到達目標】**

カジノにおけるお客様に対するサービスの理念や実践、管理手法の基本と、それらがいかにカジノの成功に影響するか、サービスの戦略、人材確保の問題、業務体制について理解し、実践する基本的な知識を身につけることができる。

### 授業計画・内容

1回目	カジノ特融のサービス戦略とそれらがお客様の思い出や楽しみに結びついているかを理解することができる。
2回目	顧客サービス戦略、戦略の実行計画の立案に関するプランニングサイクルを理解することができる。
3回目	顧客サービスの重要性とそれらがお客様のカジノ体験にどのような影響を与えるかを検討することができる。
4回目	総合的なホスピタリティサービスカルチャーを創造することの重要性について理解することができる。
5回目	顧客サービスの重要戦略を最も効果的に実行に移すための、スタッフ配置の手続きを確立できる。
6回目	トレーニングの重要性を任氏Kシイ、それが全体としての顧客サービス戦略にどのように影響するか理解できる。
7回目	従業員に動機を与えて、彼らがカジノ魂のサービスの目標に達することができるようになる。
8回目	お客様との共同作業がいかにお客様自身の思い出づくりに貢献できるかを理解する。
9回目	カジノで用いられているクレーム対処、信頼回復のテクニックを学ぶことができる。
10回目	VIPのお客様に最高の思い出を提供するための秘訣を学び、考察することができる。
11回目	世界一流の組織内文化の創造についてを学ぶことができる。
12回目	自己の接客経験の評価方法を学ぶことができる。
13回目	総合的なサービス戦略の確立に必要なリーダーシップを育むことができる。
14回目	オンライン筆記試験
15回目	授業のまとめ、世界一流のリーダーシップとは何かを論じることができる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・オンライン筆記試験の点数
受講生へのメッセージ	

**【使用教科書・教材・参考書】**

『What's the Secret?』、パソコン、インターネット環境